現代病・ドライマウスを「知る」「学ぶ」「考える」

ドライマウス通信 vol.14

2008

CONTENTS

ドライマウス研究会 活動紹介

最新情報の迅速な共有を実現させる、新たな試みとは。

ドライマウス患者友の会 誌上レポート

第5回をむかえた<友の会>の模様をお届けします。

明日から役立つドライマウス診療のヒント

<友の会>出席者アンケートから、診療のヒントを探ります。

ドライマウス講習会のご案内

平成20年度も精力的に講習会を開催します。

もっと役立つ。ずっと身近に。

生まれ変わった「ドライマウス通信」をよろしくお願い致します。

これまでの地道な活動が実を結び、新たな現代病として認知度の高まりをみせているドライマウス。メディアに取り上げられる機会も多くなり、会員も3,000名になろうとしています。これに伴い、これまでドライアイ研究会と共同で発行してまいりました「ドライアイ・ドライマウス通信」を、「ドライマウス通信」としてリニューアル。ドライマウス研究会およびドライマウス患者友の会会員の皆様に、これまで以上に幅広い視点からの、最新かつ役立つ情報をお届けしてまいります。新しい年の始まりと共に、新たなる一歩を踏み出した「ドライマウス通信」を、今後ともよろしくお願いいたします。

「ドライマウス通信」リニューアル創刊によせて

この度は、「ドライマウス通信」リニューアル創刊、おめでとうございます。2003年秋の「ドライアイ・ドライマウス通信」創刊から早4年。ふたつの会は仲良く成長してきました。会員数も増えて、今後それぞれの活動に絞った会報を独自に発行することとなりましたが、これまで同様、密な連携を図りながら、ドライマウス・ドライアイの治療と研究のさらなる発展・普及を目指していきたいと思います。ますますのご発展をお祈りしております。

ドライアイ研究会 代表世話人　坪田 一男

ドライマウスとは？

口腔乾燥症。ここ数年、中高年の女性を中心に患者数が急増しています。ある広告代理店が実施した2万人を対象とした調査※によると、49%が症状を自覚しており、これは人口の約4,200万人に相当します。QOL（生活の質）の著しい低下だけでなく、放置しておくとさまざまな感染症の引き金にもなります。老化、ストレス、薬剤の副作用、シェーグレン症候群、筋力低下など、さまざまな原因からもたらされ、そのいくつかが重なって発症するケースも多々あります。　※20～60代男女を対象に、2007年5月実施。

ドライマウス研究会

研

活動報告

情報の素早い共有と、双方向の連携に向けて

～『ドライマウス講習会』オンデマンド配信の背景～

情報化社会において、最新情報のスピーディな共有と双方向の連携は、
質の高い医療の提供を実現するための大きなカギとなります。
当研究会ではその重要性をふまえ、講習会やセミナー・ワークショップの
Webサイトによる動画配信・受講をスタート。
より利便性の高い情報共有に向けて、取り組んでいます。

現在、ドライマウス研究会の会員数は、全国で約3,000名。当研究会主催の講習会やセミナー・ワークショップにも大変多くの方にご参加いただき、好評をいただいております。しかし、これらの会には、歯科医師のみならず歯科衛生士、歯科技工士を含むさまざまな医療従事者の方々が受講を希望され、定員オーバーのためにやむなくお断りしなければならないこともこれまでに多々ありました。遠方から時間をかけてご来場を希望される皆様や、休日診療を返上してまでセミナー参加をご希望される皆様にも、大変ご不便をおかけしております。

このような現況を少しでも緩和し、最新情報の迅速な共有化を実現するため、当研究会はブランネットワークス株式会社が運営する歯科医療従事者向け総合情報サイト『DentWave.com』と連携。講習会などのWeb受講システムをスタートいたしました。

『DentWave.com』は、歯科医師のみならず歯科衛生士、歯科技工士など歯科医療従事者の方々に向け、最新のニュースや機器などの情報提供、さらには動画配信やWebセミナーなど先進的な試みを数多く実現しています。このようなWebサイトとの提携により、セミナー会場の場所や定員数にとらわれることなく、遠方の方でも移動時間などの制約を受けずに受講することが可能となりました。

既に『DentWave.com』では、当研究会の講習会やワークショップ、アドバンストコース講習会などの動画配信をスタートしており、多くの方にご活用いただいています。ご希望の受講者の方には、ドライマウス研究会発行の認定医証（歯科医師／医師）、指導士証（衛生士、技工士等、国家資格保有者）、受講証（国家資格を有しない方）を交付、資格更新単位の取得も可能となっております。認定医として登録された方は、当研究会のホームページまたは関連冊子に医院名を掲載いたします。その他、ドライマウスについての理解をさらに深めていただくための再学習用の動画なども準備、本症の普及に尽力いたします。

従来、多くの学術団体が存在する中、定期的に有益な情報を共有するためには、時間的にも経済的にも大きなロスがありました。また、今後の歯科医療の発展のためには、学会のあり方が一方的なものではなく、会員の皆様と双方向的なコミュニケーションを図れるこのようなシステムの導入は、必要不可欠であると考えられます。

当研究会では、将来的な歯科医療を担うためのデジタルネットワークの確立という高い志のもとに活動してまいります。Webツールを情報配信の手段としてより積極的に活用すべきであると痛感し、ここに新たな歯科医療の情報発信を提案いたします。

研究会を発足して今までに多くの皆様と連携してここまで発展してまいりました。しかし、これからは会員が積極的に相互連携を行い、ドライマウスの問題に取り組まなければ、歯科医療全体を取り巻く業界の発展は望めません。さらに開かれた、次世代を見据えた研究会を目指してまいりますので、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

ドライマウス研究会

食生活の変化や高齢化社会の到来に伴い増加し続けるドライマウスの、さらなる普及と情報提供を目指し、2002年設立。積極的に講習会・ワークショップなどを開催し、歯科医療従事者に向けた診断法や治療法の紹介と、ドライマウスで悩む方への対処法のアドバイスを行っています。

- 会員数：2,880名（2007年12現在）
- 代表：斎藤 一郎
- 代表世話人：篠原 正徳・中村 誠司
- 世話人：安彦 善裕・小野 眞史・黒澤 俊夫・阪井 丘芳・武田 智道・武田 全代・豊福 明・永長 周一郎・中川 洋一・西村 敏・野村 義明・浜野 弘規・間嶋 伸治・山田 雅昭

特集

報

誌上レポート

第5回 ドライマウス患者友の会

鶴見大学会館にて行われた第5回<ドライマウス患者友の会>。真剣に学ぶ姿から、歯科医師として考えさせられることも多い。

この言葉は、<ドライマウス患者友の会>に
当日ご出席くださった参加者が、
閉会後のアンケートに書かれた一文です。
これが、ドライマウスに悩む方々の現状を
物語っているのではないでしょうか。
認知されつつあるとはいえ、
まだまだ受け入れてもらえる病院は少ないのが現状。
有益な情報も得られないまま、
ひとりドライマウスと向き合う日々———。
歯科医療従事者に、いま求められていることは何なのか。
<友の会>の模様から、今後取り組むべき課題を探ります。

■QOLに大きく関わるドライマウスにおける、「明日から実践できる」情報の重要性。

2003年から毎年開催され、これまで約350名の方々にご参加いただいてきた<ドライマウス患者友の会>。2007年9月23日（日）に開催された第5回にも、約60名が全国各地からお集まりいただき、ドライマウスの認知度の高まりに伴う、潜在的ドライマウス患者の顕著化を裏づける形となりました。

講演は毎年、当研究会の斎藤一郎代表が担当。ドライマウス外来の経験をふまえたドライマウスの原因と症状の解説や、口腔だけでなく全身の健康における唾液の重要性、さらには、最近の基礎研究から明らかになった、酸化ストレスとドライマウスの関係など最新の医療情報も紹介され、かみ砕いたわかりやすい解説にしきりに頷く姿も多々見られました。中でも特徴的なのが、ドライマウスの対処法として有効なセルフケアの方法の紹介に、多く時間が割かれている点。日常的なシーンや実体験を例にあげて解説するなど、「誰もが明日から実践できる」を念頭において紹介されたこれらの内容は、閉会後のアンケートでも好評で、ドライマウスに悩む方々の目線に立った対応が求められていることが伺えました。

■“身近な認定医”の増加、<友の会支部>の発足…。いま待たれる、今後の展開とは。

講演後には、口腔のセルフケアや唾液分泌の方法についての具体的な質問があるなど、日常生活に密着した意見が多く交換され、ドライマウスというまだまだ認知度が高いとは言えない病状を抱える方それぞれが、日々感じている不安や疑問の多さを伺わせました。このような現状は、ドライマウスに関する知識を持った歯科医師の不足と直結しており、今後、自宅から気軽に通うことができる“身近な認定医”の増加に期待が寄せられていることは明白です。また、なかなか理解されにくいドライマウスのような疾患では特に、このような場で同じ悩みを持つ方と交流し励まし合うことは、あきらめずに治療を積極的に受け、症状の改善につなげていくための重要なポイントとなります。これを機会に、各地での<友の会支部>発足を認定医の皆様にご検討いただくと共に、当研究会としても積極的に支援を行っていきたいと考えています。

「友の会の存在に、私たちがどれだけ救われているかわかりません」

生の声から学ぶ 明日から役立つドライマウス診療のヒント

<友の会>参加者が
生の声をつづったアンケートには、
診療のヒントがたくさん隠されています。
今後の診療に
明日から役立つ情報として、
ご活用ください。

幅広い視点からの情報収集の重要性

- 漢方薬で良いものがあれば教えてください。
- 薬剤以外の健康食品などでいい物があれば使いたい。
- 唾液の出を良くする体操・つぼ・マッサージがあったら知りたいです。

■ドライマウスに悩む方々は、情報を求めています。複合的な要因から引き起こされるケースが多いドライマウスの診療には、歯科領域だけではない幅広い視点からの情報収集が重要となります。

症状緩和のカギは“対処法”の提案

- 実行できることは帰ったらすぐはじめます。
- 希望者に配布された第4回<友の会>の講演DVDも良かったですが、やはり参加して正解でした。具体的な対処法をより多く教えて欲しいです。
- 今度こそ筋機能療法を継続して成果を実感したいと決意しました。

■すぐに始められる対処法は、ドライマウスに悩む方々が最も知りたいと思っている情報のひとつ。<友の会>の講演内容を参考に、実践しやすい生活に密着したアドバイスを行うことが、症状緩和のカギとなります。

<友の会>の輪を全国に

- 何度も病院で“治らない”という言葉を聞いてきましたが先生のお話をうかがい希望が持てました。
- 患者さん同士の交流の場をもっとつくっていただきたいです。
- 先生の講演をお聞きして、日々不安と戦っているやや弱めの心に光が差し込み、励ましを受けました。

■<友の会>の存在は、確実にドライマウスに悩む方々の支えとなっています。今後、各地の認定医や指導士の皆様により<友の会支部>が設立され、その輪が全国に広がっていくことを目指して、当研究会は積極的に支援を行っていきます。

こんな情報が知りたい

こんなときどうすればいい？

生の声をお寄せください！

日々の診療で困ったこと、役立ったこと、受診者から受けた質問など、ドライマウス医療現場の生の声をお寄せ下さい。「ドライマウス通信」を情報共有の場とし、今後の診療に役立つ情報としてご紹介させていただきます。

講

ドライマウス講習会

平成20年度 ドライマウス研究会主催
医療従事者向け講習会のご案内

ドライマウス研究会では、今後ますますニーズが高まると予測される
ドライマウス診療の普及と、認定医・指導士の育成を目指し、
講習会やワークショップを実施しています。ぜひご参加下さい。

2008

4/20(日)	第13回	ドライマウス講習会	会場:KDDIホール
6/15(日)	第7回	ドライマウスワークショップ	会場:KDDIホール
9/21(日)	第14回	ドライマウス講習会	会場:KDDIホール
10/26(日)	第5回	ドライマウスアドバンストコース講習会	会場:KDDIホール

会場連絡先：KDDIホール 東京都千代田区大手町1-8-1 KDDI大手町ビル2F
※会員の皆様には、申込時期になりましたら詳細を別途ご案内いたします。
※日程、会場は変更となる場合がございます。詳しくは下記ドライマウス研究会ホームページでご確認いただくか、下記研究会事務局までお問合せ下さい。
※上記講習会・ワークショップは、すべて日歯生涯研修事業に該当予定です。

参加のお申込み・お問合せは、下記ホームページまたは研究会事務局まで。
ドライマウス研究会ホームページ　www.drymouth-society.com
ドライマウス研究会事務局　☎03-3869-4158　FAX03-3869-6748　✉seminar@drymouth-society.com

友

ドライマウス患者友の会

第6回 ドライマウス患者友の会　開催予定

平成20年度も＜ドライマウス患者友の会＞を開催いたします。
全国からドライマウスに悩む方々が集い、ドライマウスについて学び、
励まし合う貴重な機会です。お気軽にご参加下さい。

2008年9月 開催予定　会場：鶴見大学会館

※会員の皆様には、詳細が決まり次第、別途ご案内いたします。
参加のお申込み・お問合せは下記まで。
ドライマウス患者友の会事務局　☎045-580-8362　FAX045-572-2888

情
Information

ドライマウス研究会 Information

メディアに紹介されました

■ 朝日新聞
2007年11月23日発刊
**「あなたの安心 お口のケア⑤
健康と若さのため唾液の分泌促す」**

■ 日経ヘルス 12月号
**「女性のお悩み解決手帳24
口臭・ドライマウス対策
口臭の原因! おクチ乾いていない?」**

■ 財団法人健康・体力づくり事業財団
『健康づくり』11月号
「健康づくり Q&A」

抗加齢歯科医学研究会 主催講習会のご案内

■ **第2回 抗加齢歯科医学研究会主催
指導士育成セミナー
2008年3月30日(日)**
鶴見大学会館(神奈川県横浜市)

■ **第6回 抗加齢歯科医学研究会主催
講習会
2008年4月13日(日)**
東京コンファレンスセンター・品川

■ 抗加齢歯科医学研究会は、日本抗加齢医学会の分科会として活動してまいります。
ご興味のある方は、下記までお問い合わせ下さい。
HP http://www.anti-aging-dental.com/
☎ 03-3869-4158
✉ info@anti-aging-dental.com

編集後記

■ 新生「ドライマウス通信」、いかがでしたでしょうか。これまで以上に有益かつ読み物としても充実したニュースレターを目指して参りますので、一層のご支援をお願い致します。(S)

■ ドライマウス研究会は、ごく少人数のスタッフが体力勝負で運営しています。寒さが厳しい季節ですが、皆様もご自愛下さい。(T)

■ 事務局に携わって4年。今号よりドライマウス通信も担当することになりました。リニューアルに際し、お力添え下さいました関係者各位・スタッフの皆様に心より御礼申し上げます。(K)

■ 発行人：斎藤 一郎(ドライマウス研究会 代表・鶴見大学歯学部教授) ■ 発行：ドライマウス研究会 〒230-8501横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学歯学部口腔病理学講座内 ☎045-580-8362